

しば ふき お 芝 不器男 (1903~1930)



俳人。北宇和郡明治村(現、松野町)出身。後に、同郡二名村(現、宇和島市)の太宰家に入り太宰姓を名乗る。愛媛県立宇和島中学校(現、県立宇和島東高等学校)、松山高等学校(現、愛媛大学)を経て東京帝国大学農学部(現、東京大学)に入学、後、東北帝国大学(現、東北大学)に転校したが中退した。俳句は、大正12(1923)年、夏休みの帰省中に関東大震災が発生したため、そのまま上京せずに郷里に滞在していたところ、姉の勧めで本格的に始めた。俳誌『天の川』へ投句し巻頭を飾り、後に『ホトトギス』に投句し高浜虚子(たかはしきよこ)の名鑑賞を受け一躍注目をあびた。最初に万葉調俳句を作ったといわれている。

略歴

- | | |
|-------------------|--|
| 明治36(1903)年 4月18日 | 北宇和郡明治村松丸の芝家に生まれる。 |
| 大正5(1916)年 | 愛媛県立宇和島中学校に入学。宇和島市桜町に下宿 |
| 大正7(1918)年 | 『少年世界』に挿絵類を描き始める。 |
| 大正9(1920)年 | 松山高等学校に入学。旅行部、マンドリンクラブに所属し、四国山地や日本アルプスを踏破 |
| 大正12(1923)年 | 東京帝国大学農学部に入
夏休みの帰省中に関東大震災が発生したため、そのまま上京せずに郷里に滞在。そこで俳句を作り始め、句会に参加する。 |
| 大正14(1925)年 | 東京帝国大学を中退し、東北帝国大学に入
仙台に下宿し、『天の川』へ投句を始める。 |
| 大正15(1926)年 | 『天の川』の巻頭を占める。『ホトトギス』への投句を始める。 |
| 昭和2(1927)年 | 『ホトトギス』で高浜虚子の鑑賞を受ける。東北帝国大学を中退 |
| 昭和3(1928)年 | 太宰文江と結婚、太宰家に入る。北宇和郡二名村に住む。 |
| 昭和4(1929)年 | 発病し、福岡の九州帝大付属病院に夫婦で入院 |
| 昭和5(1930)年 2月24日 | 28歳で永眠 |

(写真提供：芝不器男記念館)

〈関連図書〉

- ・芝不器男『定本芝不器男句集』 昭森社 1970年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 文学』 愛媛県 1984年
- ・芝不器男他『不器男全句集』 塩崎月穂 1994年
- ・堀内統義『峡のまればと』 邑書林 1996年
- ・岡田日郎『芝不器男研究』 梅里書房 1997年
- ・坪内稔典・谷さやん『不器男百句』 創風社出版 2006年

〈主な収蔵資料〉…(P228, 145)

〈ゆかりのある場所〉…(P315, 207)

〈関連施設〉…芝不器男記念館

〒798-2101 愛媛県北宇和郡松野町松丸258 TEL0895-42-1584